

高石商工会議所景気観測調査 2023年12月調査

(調査概要)

- 調査対象:高石市内 64 社(業種内訳 製造業13社、建設業13社、小売業・卸売業14社、飲食業9社、サービス業15社)
- 調査時期:2023年12月
- 調査項目:売上高、採算、従業員(人手)状況、業況、資金繰り、物価高の影響
- 調査方法:「FAX、インターネットによる回答」・「職員による調査票に基づくヒアリング」

(全体)



売上高		採算		資金繰り	
増加	15	好転	6	好転	1
不変	20	不変	29	不変	48
減少	29	悪化	28	悪化	15

前回調査では売上が増加傾向であったが、その伸びは鈍化している。また、**資材、原材料、燃料の高騰などにより採算が悪化**、コロナ関連融資の返済開始もあり、**資金繰りについても悪化**しており、今後も厳しい状況が続くと予測されている。支援機関等への**早めの経営相談や施策の活用により対応策を検討**したい。

(製造業)



売上高		採算		従業員	
増加	4	好転	2	不足	3
不変	5	不変	6	不変	10
減少	4	悪化	4	過剰	0

売上の増加傾向が一服し、物価高の影響で採算が悪化している。先行きも好転するとは予測されておらず、不透明な状況となっている。**人手不足感が増しており**今後も続く見込みである。新たに設置された**中小機構の「人手不足相談窓口」**を活用するなど**人材確保計画の作成**にも取り組みたい。

(建設業)



採算		従業員		資金繰り	
好転	2	不足	2	好転	0
不変	7	不変	11	不変	11
悪化	4	過剰	0	悪化	2

資材の高騰による採算悪化傾向は変わらず、その影響で資金繰りも好転の兆しが見えない。また、人手不足にも拍車がかかっており、事業拡大のための経営資源(ヒト、カネ)の確保が厳しい状況にあり、プラスアルファの対策が求められる。中小機構の「人手不足相談窓口」など支援機関を有効に活用して新たな取り組みを検討したい。

(小売・卸業)



売上高		採算		業況	
増加	1	好転	0	好転	1
不変	4	不変	7	不変	8
減少	9	悪化	7	悪化	5

売上の低迷が長期化や仕入れの高騰の影響により、依然として採算の悪化が続いている。先行きも好転の予測はされておらず、現在の事業継続を懸念する声もある。生産性向上や新事業展開が必須の状況であり、中小機構のIT経営サポートセンターや小規模事業者持続化補助金などの施策を活用して取り組みを進めたい。

(飲食業)



売上高		採算		資金繰り	
増加	3	好転	0	好転	0
不変	1	不変	1	不変	5
減少	5	悪化	8	悪化	4

原材料や人件費がアップしているが価格転嫁が進んでおらず採算が悪化し続けている。その影響やコロナ関連融資の返済開始もあり資金繰りも厳しい状況であり、先行きの業況も悪化の見通しである。多岐に渡る課題を解決していくため商工会議所の伴走支援を活用するなどさらなる取り組みを進めたい。

(サービス業)



売上高		採算		業況	
増加	4	好転	2	好転	2
不変	5	不変	8	不変	7
減少	6	悪化	5	悪化	6

回復傾向であった売上が伸び悩み、経費の増加により採算も悪化していることから業況が厳しくなっている。また、先行きも好転するとは予測されておらず、事業所ごとの課題に応じた取り組みが必須となっている。商工会議所等での経営相談を活用し優先課題を設定、補助金等の施策も活用して課題解決の取り組みを進めたい。